

# 顔形態と化粧の差異による希望される関係性の検討

九 島 紀 子<sup>\*1</sup>・齊 藤 勇<sup>\*2</sup>

## Review of the Interpersonal Relationships that are Desired According to Different Facial Features and Makeup

KUSHIMA Noriko and SAITO Isamu

### Abstract

This study examines the effects that facial features and makeup have on interpersonal relationships. The first study examines how different facial features will affect the interpersonal relationships that the person desires. The second study examines how different styles of makeup will affect the interpersonal relationships that the person desires. The results in the first study revealed that the five different faces presented in the study each showed differences in the interpersonal relationships they desired. The results of the second study also revealed that the four different styles of makeup showed differences in the interpersonal relationships they desired. It was shown that there were types of makeup that indicate the person's desire for a relationship as a lover or friend, while there were types of makeup that indicate that the person does not want any relationship.

[Keywords] Facial features, Makeup, Interpersonal relationships, Impressions

### 問 題

#### 1. 外見的魅力

これまでの社会心理学研究において、外見的魅力が高い人は様々な場面で好意的に、また高い評価をされることが、明らかにされてきている。Dion, Berscheid & Walster (1972) は、魅力度を操作した写真を提示し、魅力度に応じた異なる評価を得るのかを検討している。その結果、パーソナリティの望ましさ、職業上の地位の高さ、配偶者としての能力、幸福な結婚の可能性、社会的、職業的に幸福な生活が送れるなどの尺度で、外見的魅力度の高い人が有意に高い評価を得ている。小野寺 (1989) は、男子学生を対象に女性 (写真) の魅力評定を行い、その写真の魅力度 (高中低) で、パーソナリティの望ましさ、希望する関係性 (配偶者として、恋人として、友達として、など) に有意な差が示されている。魅力が高いほど望ましい性格特性を持つと判断され、配偶者、恋人、友達として、望まれた。一方、魅力度の低い人は、望ましい性格特性を持っていないと判断され、配偶者、恋人、友達として、一切望まれなかった。このように、外見の魅力の高さは、対人関係への影響も示唆されている。

その他の研究においても、魅力的な人はそうでない人に比べて、デートの相手として好まれ (Walster, Aronson, Abrahams, & Rottman, 1966)、進んで雇用され (Cash & Kilcullen, 1985)、仕事もできると評価される (Landy & Sigall, 1974)。また、魅力的であると評価された人々が受け取る年収は、魅力的でない人たちの年収よりも有意に高い (Hamer-mesh & Biddle, 1994)。など、数多くの研究において、概ね同様の結果が示されている。

Patzer (1983) は、外見の魅力に関する調査の結果を次の4つにまとめている。

---

\* 1 立正大学大学院心理学研究科心理学専攻博士後期課程

\* 2 立正大学名誉教授

- ①外見が魅力的な人はそうでない人よりも、大きな社会的影響をもっている。
- ②外見に魅力のある人は、より好ましい個人的特性、非個人的特性をもっていると認知される。そこには、知性、人格傾向、人生での成功が含まれる。
- ③外見の魅力がある人は、そうでない人に比較して、他人に対してプラスの影響を持ち、他者からもプラスの反応を得る。これは仕事や援助の要請が含まれる。
- ④外見の魅力がある人は、そうでない人よりも強い説得力を持つ、としている。

また、Berscheid (1981) は、「外見が魅力的な者がそうでない者より好まれ、対人上好意的な扱いを受けるという形になる。こうした外見の魅力の心理的影響は、頻度も強度も高く、また全体に及ぶという一枚岩的な性格をもっている。」と論じている (ただし Bull, 1988による)。

なぜこのように、外見的魅力を有する人が好まれるのか。その理由について、Hatfield and Sprecher (1986) は、以下の3つを挙げている。

- ①魅力的な人々が美的訴求力をもつこと、すなわち、美的な世界に浸ることに人々が快感を経験するのと同じように、美しい人に接することに人々が快感を見出すことである。
- ②外見は、人の内的特性について我々の推論内容に影響することである。魅力的な人々は、単に魅力的だという理由だけから、多くの肯定的な内的特性を持っているとみなされる。
- ③我々は魅力的な人々と一緒にいたいと願うことである。なぜならば、魅力的な人と一緒にいるときには、我々の自尊感情や地位が増大するからである。としている。

ただし、③に関しては、美しい女性を伴っている男性の場合には当てはまるが、魅力的な男性を伴った女性には必ずしも当てはまらない (Bar-Tal & Saxe, 1976)。美しい女性は男性に対して貴重な交換価値を持つ (Rudd & Lennon, 2004) と言われている。なぜ美しい女性には価値があるのか。なぜ女性なのか。以下に、女性の外見魅力に関する研究を示す。

## 2. 女性に求められる外見の魅力

これまでの魅力研究から、男性と女性とでは、異性の外見への重視度が異なることが明らかになってきている。その代表的な研究として、Buss (1989) は、世界37の文化圏の人々に配偶者選択に関する、男女比較の大規模調査を行っている。その結果、34 (92%) の文化圏の男性が、女性よりも容貌の良さを重視していることが明らかになった。この結果を支持する研究として、Udry and Eckland (1984) は、女子高生の写真を魅力評定し、15年後に調査を行っている。その結果、魅力の得点が高い人ほど早く結婚し、収入の高い男性と結婚していることが明らかにされている。

その他の外見に対する男女比較をした研究として、McKelvie and Matthews (1976) は、顔の魅力と人格の好ましさにについて、男性評価者は、人格よりも顔の魅力に影響を受け、女性評価者はその反対の傾向を示したことを明らかにしており、Greenlees and McGrew (1994) は、恋人募集広告の分析を行い、男性は女性に対し身体的外見を重視し、女性は男性に対して身体的魅力よりも経済的資質を重要視することを明らかにしている。日本においては、金田・山本 (2004) が、顔に関する意識調査として10代以上の男女1522名を対象に、自分の顔の状態、目鼻口のサイズなどをどの程度気にするか、また、異性の顔の状態、目鼻口のサイズなどをどの程度気にするかを調査している。その結果、男性は自分の外見は気にしないが、女性の外見のことは、女性が男性の外見を気にする以上に有意に気にしていることが明らかにされている。一方、女性は、男性の外見は余り気にしないが、自分の外見は男性以上に気にしていることが明らかとなった。

このように女性の容貌の方が、男性の場合よりも異性間魅力に占める重要性が大きいことは、社会心理学の研究が繰り返し示唆してきた (蛭川, 1993)。また、男性評価者が女性の顔や外見的魅力を評価している研究が数多く存在するのに対し、女性評価者だけが男性の外見について評価している研究が極めて少ないことから、女性の外見は評価の対象になりやすく、同時に重要視されていることが伺える。

### 3. 女性の顔の魅力

女性の外見魅力について、その有力な手がかかりとなるのが、顔であると考えられる。具体的にはどのような顔の女性が魅力的であるのか、顔の魅力について Cunningham (1986) は、顔の詳細な構造特徴と対人魅力の関係を検討し、以下の3つの魅力の手がかかりを明らかにしている。①幼児性の特徴（大きな目、小さな鼻、小さな顎、目と目の間隔など）、②成熟の特徴（高い頬骨、狭い頬など）、③表現力の特徴（眉毛の位置の高さ、大きな瞳、微笑など）としている。さらに大坊（2001）は、上記3特徴に「造形美」の特徴を加え、顔の魅力の手がかかりを4つに分類している。①幼児性（かわいさ、保護の対象）：前に出た大きな頭部、大きな目、小さな鼻－口－顎 など、②異性としての牽引性（成熟さ、配偶者選択）：唇の目立ちやすさ、頬のせまさ など、③造形美（形態、バランス、黄金率など）：黄金率、平均、バランスの取れた顔など、④表現力（伝達の容易さ、親近性）：大きな口、大きな目 など、としている。また、大坊（1997）は、美には、普遍的な美（絶対美）と社会的な美（相対的美）の二型があることを指摘しており、黄金率や、シンメトリー、平均、バランスを、普遍的な美（絶対美）に分類している。

九島・齊藤（2015a）は、これらの女性の顔の魅力について整理し、女性の顔の形態を成熟－幼稚、女性－男性の2次元から分類し、その配置によって対人印象、魅力が異なることを明らかにしている。

### 4. 外見的魅力への化粧<sup>(1)</sup>の影響

女性の顔の魅力は、化粧をすることによりさらに高まると期待され、外見的魅力への化粧の影響について研究が行われてきている。例えば、Cox & Glick (1986) は、化粧をしている顔としていない顔の女性の写真を提示し、その印象評定を行っている。その結果、化粧をしている時の方が、魅力的、女性的、セクシーであることが明らかとなった。Graham & Furnham (1981), Workman & Johnson (1991) は、メイクの有無だけでなく、メイクの段階を操作している。ノーメイク、ナチュラルメイク、ヘビーメイクを施した女性の写真を提示し、魅力度などの評定を求めた結果、化粧度が上がるほど魅力度や女性性の評価が増加することが明らかとなっている。

また、Mims, Hartnett & Nay (1975), Harrell (1978) は、化粧の有無によってどの程度援助行動を受けられるのか、その違いを検討している。その結果、メイクをしている人の方が、より時間をかけて援助を受けられることが明らかとなっている。特に男性評価者は、ノーメイクよりもメイクをしている顔の方が、魅力が高いと評価することが明らかとなっている (Hamid (1972), Cash, Dawson, David, Bowen, & Galumbeck (1989))。

わが国においても、津田・余語・浜（1989）により、素顔、自己化粧、技術者化粧の女性の写真を提示し、魅力度などの評定を求めている。その結果、素顔よりも化粧顔の方が、魅力度評価が増加することが明らかとなっている。高野（2010）は、メイクの有無とそれぞれへの笑顔度を調整した写真を提示し、印象を評定した結果、魅力的な、美しい、好ましいなどの印象において、メイク顔が多く選択されたことを明らかにしている。また、川名（2012）は、メイクの有無、笑顔の有無の組み合わせによる4つの写真を提示した結果、化粧顔は美的魅力などを有意に高め、友人や恋人としての関係を希望されることを明らかにしている。この結果から化粧は、魅力評価を高めるだけでなく、対人関係への影響も示唆されている。

しかし一方で大坊（1998）は、化粧によっては対人魅力を下げることがあることを「化粧の両面効果」と指摘している。九島・齊藤（2015b）においても、メイクの種類によっては印象評価を下げることで、また同じメイクでもベースとなる顔によって印象を上げたり下げたりすることが明らかにされており、化粧をすることで一律に魅力を上昇させるというわけではないことを示唆している。

このように、化粧も含めた外見的魅力が、対人印象や対人関係へ影響を与えていることが検討されてきているが、特に対人関係については、顔の形態や化粧の種類による影響が詳細に検討されてきてはいない。そこで本研究では、具体的にどのような顔や化粧が、対人関係においてどのような影響を与えているのかを、九島・齊藤（2015a, 2015b）に基づいて分類、検討していく。研究1では顔の形態の違いにより希望される関係性に影響があるのか、研究2では化粧の違いにより希望される関係性に影響があるのか、それぞれ検討していく。これらが明らかにされることで、日常場面での対人関係を円滑にしていくための示唆が与えられるものと考えられる。

## 研究1

### 目 的

九島・齊藤（2015a）により作成された、女性の顔の形態（成熟－幼稚、女性－男性の2次元に分類された顔）の差異により希望される関係性が異なるのかを検討する。

### 方 法

**調査方法** 集合形式の質問紙調査を実施した。

**対象者** 大学生159名（男性48名、女性111名、 $M=19.63$ 歳・ $SD=1.45$ ）であった。

**刺激** 九島・齊藤（2015a）により作成された5つの顔刺激を使用する。5つの顔刺激は、原型顔と原型顔を基に成熟・性別特徴を踏まえ、顔パーツの移動により作成された4つの顔、幼稚的×男性的な顔（以降、幼男と表記）、幼稚的×女性的な顔（以降、幼女と表記）、大人の×女性的な顔（以降、成女と表記）、大人の×男性的な顔（以降、成男と表記）である。その5つの顔のイラストを各縦450ミリ×横300ミリのサイズとし、調査用紙上部に5つの顔刺激を横並びに貼付けて提示した（Figure 1）。なお、刺激顔の並び順による印象変化の影響を考慮し、5通りの刺激パターンを用意した。原型顔を中央に設定し、その他4つの顔は、それぞれ1回は全ての位置に配置されるように組み合わせた。

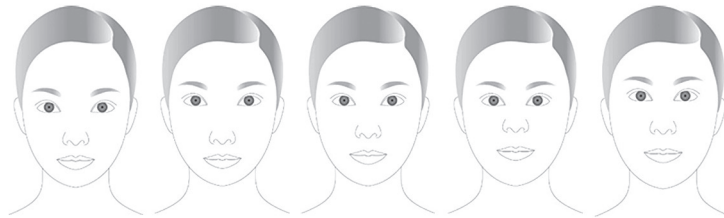


Figure 1 研究1 提示刺激

### 評価項目

**1. 形態評価** 顔のパーツ配置の差異が、顔の形態に関する印象に違いを生じさせるかを検討するため、形態評価項目として以下の11項目を設定した。まず鈴木（1993）の形態印象評価用語40語から、顔のバランスやパーツの大きさを尋ねる10項目（顔の大きさ、顔の長さ、顔の横幅、額の広さ、頬の大きさ、顎の大きさ、眉のボリューム、目の大きさ、鼻の大きさ、口の大きさ、パーツの集中度）を選出した。さらに鈴木（1993）の形態印象の因子構造の一つである、顔の長さを尋ねる1項目を加えた。それぞれの顔刺激に対し、これら11項目についてどの程度あてはまるかを、対象者に5件法（例：1. 小さい－5. 大きい）で評価を求めた。

**2. 印象評価** 対人印象を評価する項目は、以下の24項目とした。まず、鈴木（1993）の印象評価用語より、4つの下位尺度ごとに、負荷量の高い上位4項目、計16項目（あたたかい、人がよさそう、おおらか、やさしい、知的な、都会的な、上品な、活発な、ダイナミック、しっかりした、男性的、若々しい、子供っぽい、かわいい、老けた）を選出した。続いて、阿部（2008）の人格印象評価用語より、上記の16項目と重複しない以下の5項目、キュート、フレッシュ、クール、シャープ、女性的\*）を選出した（\*阿部（2008）では「女らしい」であるが、鈴木（1993）の「男性的」に合わせ、「女性的」へと変更した）。さらに、Takano et al. (1996) の魅力評価用語より、2項目（エレガント、フェミニン）、川名（2012）の外見的魅力評価より、1項目（美しい）を選出し、計24項目とした。これら24項目が、それぞれの顔刺激に対し、どの程度あてはまるかを、対象者に5件法（例：1. 若々しくない－5. 若々しい）で評価を求めた。

**3. 関係性希望評価** 該当する顔の人とどのような対人関係を築きたいと思うかを評価する項目は、川名（2012）の関係性希望を問う質問項目に、恋人として望まれるかどうかを問う質問項目を追加し、以下の3項目とした。項目は（1）恋人にしたい（男性のみが回答）、（2）友達にしたい、（3）恋人として望まれる（女性のみが回答）であった。それぞれの顔刺激に対し、これら3項目についてどの程度あてはまるかを対象者に5件法（例：1. 恋人にしたくない－5. 恋人にしたい）で評価を求めた。



## 結 果

### 1. 5つの顔への関係性希望の違い

5つの顔への関係性希望がそれぞれ異なるのかを検討するため、関係性希望の項目ごとに分散分析を行った (Table 1)。その結果、まず第一に、友達にしたい程度の分散分析の結果、5つの顔への友達にしたい程度に有意な差がみられた ( $F(4, 632)=52.238, p<.001$ )。第二に、恋人にしたい程度の分散分析の結果、5つの顔への恋人にしたい程度に有意な差がみられた ( $F(4, 188)=20.991, p<.001$ )。第三に、恋人として望まれる程度の分散分析の結果、5つの顔への恋人として望まれる程度に有意な差がみられた ( $F(4, 440)=74.832, p<.001$ )。

Table 1 5つの顔への関係性希望の違い

		幼女	成女	原型	幼男	成男	F 検定	下位検定			
友だちにしたい	M	3.80	3.48	4.26	3.03	2.84	$F(4,632)=52.238^{***}$	原型>幼女	成女	幼男	成男
	SD	1.08	1.22	0.89	1.15	1.18		幼女>成女	幼男	成男	
	n	159	159	159	159	159		成女>幼男	成男		
恋人にしたい	M	3.44	2.65	3.73	2.31	1.94	$F(4,188)=20.991^{***}$	原型>成女	幼男	成男	
	SD	1.34	1.25	1.16	1.11	1.02		幼女>成女	幼男	成男	
	n	48	48	48	48	48		成女>成男			
恋人として望まれる	M	3.69	3.20	4.09	2.29	2.10	$F(4,440)=74.832^{***}$	原型>幼女	成女	幼男	成男
	SD	1.34	1.28	0.97	1.02	1.03		幼女>成女	幼男	成男	
	n	111	111	111	111	111		成女>幼男	成男		

\*\*\*  $p<.001$

### 2. 顔印象の構造

全5つの顔の印象評価に関する24項目について、5つの顔で構造分析したが、大きな違いが見られなかったため、超行列の因子分析を行った。3因子を仮定して主因子法、プロマックス回転を行った。その結果、因子負荷量0.4以上の項目のみを採用し3因子構造とすることとした (Table 2)。

Table 2 顔印象の因子分析結果

	若年女性性	知性的	人柄の良さ	$\alpha$
かわいい	.85	.00	.07	.88
老けた	-.78	.12	.11	
キュート	.77	-.04	.05	
若々しい	.76	-.11	-.12	
女性的	.72	.03	.05	
男性的	-.69	.15	.04	
フレッシュ	.56	.16	.04	
フェミニン	.50	.11	.20	
ダイナミック	-.47	-.09	.18	
知的な	-.08	.72	.05	.77
クール	-.06	.64	-.20	
しっかりした	-.26	.62	.05	
シャープ	.08	.61	-.23	.74
エレガント	.20	.52	.08	
上品さ	.22	.51	.20	
人がよさそう	-.06	.00	.73	
あたたかい	.00	-.12	.68	
おおらか	-.11	-.10	.64	
優しい	.04	.05	.61	
因子相関行列		.44	.26	
			.32	

## 3. 顔の形態印象と関係性希望の関連

## 1) 原型顔の形態印象と関係性希望の相関

原型顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table 3 に示す結果が得られた。

顔の大きさは、「恋人にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r=.38, p<.01$ )。鼻の大きさは、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.40, p<.001$ )。パーツの集中度は、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.36, p<.01$ )。顔の長さ、横幅、額の広さ、頬、顎の大きさ、眉のボリューム、目、口の大きさは、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table 3 原型顔の形態印象と関係性希望の相関

原型	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.08 (159)	.38** (48)	-.06 (111)
顔の長さ	-.03 (159)	-.06 (48)	-.09 (111)
顔の横幅	.00 (159)	.26 (48)	-.01 (111)
額の大きさ	-.01 (159)	.10 (48)	.01 (111)
頬の大きさ	.02 (159)	.00 (48)	-.08 (111)
顎の大きさ	.02 (159)	.15 (48)	-.06 (111)
眉ボリューム	-.09 (159)	-.10 (48)	.01 (111)
目の大きさ	.02 (159)	-.13 (48)	-.12 (111)
鼻の大きさ	-.05 (159)	-.40** (48)	.02 (111)
口の大きさ	-.05 (159)	-.24 (48)	.07 (111)
パーツ集中度	-.10 (159)	-.36** (48)	-.15 (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 2) 幼女顔の形態印象と関係性希望の相関

幼女顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table 4 に示す結果が得られた。

顔の長さは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.16, p<.05$ )。目の大きさは、「恋人にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r=.31, p<.05$ )。パーツの集中度は、「恋人にしたい」と有意な正の相関 ( $r=.31, p<.05$ )、「恋人として望まれる」と有意な正の相関 ( $r=.20, p<.05$ ) がみられた。顔の大きさ、顔の横幅、額の広さ、頬の大きさ、顎の大きさ、眉のボリューム、鼻の大きさ、口の大きさは、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table 4 幼女顔の形態印象と関係性希望の相関

幼女	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.03 (159)	-.23 (48)	-.10 (111)
顔の長さ	-.16* (159)	.05 (48)	-.01 (111)
顔の横幅	.09 (159)	.12 (48)	-.04 (111)
額の大きさ	-.02 (159)	.03 (48)	-.16 (111)
頬の大きさ	.03 (159)	-.14 (48)	-.10 (111)
顎の大きさ	.06 (159)	-.09 (48)	-.14 (111)
眉ボリューム	-.09 (159)	.08 (48)	.02 (111)
目の大きさ	.07 (159)	.31* (48)	.08 (111)
鼻の大きさ	-.06 (159)	-.12 (48)	-.12 (111)
口の大きさ	-.03 (159)	.02 (48)	-.02 (111)
パーツ集中度	.13 (159)	.31* (48)	.20* (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

### 3) 成女顔の形態印象と関係性希望の相関

成女顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table 5 に示す結果が得られた。

頬の大きさは、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.49, p<.01$ )。顎の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられ ( $r=-.17, p<.05$ ) 「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.30, p<.05$ )。目の大きさは、「友達にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r=.16, p<.05$ )。顔の大きさ、長さ、横幅、額の広さ、眉のボリューム、鼻の大きさ、口の大きさ、パーツの集中度は、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table 5 成女顔の形態印象と関係性希望の相関

成女	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.07 (159)	-.23 (48)	-.17 (111)
顔の長さ	-.02 (159)	-.11 (48)	-.09 (111)
顔の横幅	.01 (159)	.07 (48)	-.19 (111)
額の大きさ	-.02 (159)	.02 (48)	-.11 (111)
頬の大きさ	-.13 (159)	-.49** (48)	.04 (111)
顎の大きさ	-.17* (159)	-.30* (48)	.01 (111)
眉ボリューム	-.12 (159)	-.17 (48)	.10 (111)
目の大きさ	.16* (159)	.08 (48)	.11 (111)
鼻の大きさ	.10 (159)	-.16 (48)	-.05 (111)
口の大きさ	.05 (159)	-.13 (48)	.11 (111)
パーツ集中度	.12 (159)	.22 (48)	.17 (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

### 4) 幼男顔の形態印象と関係性希望の相関

幼男顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table 6 に示す結果が得られた。

顎の大きさは、「友達にしたい」と有意な正の相関がみられ ( $r=.16, p<.05$ )、「恋人としての望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.20, p<.05$ )。顔の大きさ、長さ、横幅、額の広さ、頬の大きさ、眉のボリューム、目、鼻、口の大きさ、パーツの集中度は、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table 6 幼男顔の形態印象と関係性希望の相関

幼男	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.12 (159)	-.23 (48)	-.17 (111)
顔の長さ	-.05 (159)	-.13 (48)	-.04 (111)
顔の横幅	.02 (159)	-.18 (48)	-.10 (111)
額の大きさ	.14 (159)	.04 (48)	.06 (111)
頬の大きさ	.11 (159)	-.04 (48)	-.09 (111)
顎の大きさ	.17* (159)	-.09 (48)	-.21* (111)
眉ボリューム	.01 (159)	-.11 (48)	-.16 (111)
目の大きさ	.06 (159)	-.04 (48)	-.13 (111)
鼻の大きさ	.07 (159)	-.11 (48)	.05 (111)
口の大きさ	.15 (159)	.20 (48)	.03 (111)
パーツ集中度	.05 (159)	-.06 (48)	-.04 (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

### 5) 成男顔の形態印象と関係性希望の相関

成男顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table 7 に示す結果が得られた。

額の広さは、「恋人にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r=.35, p<.05$ )。顎の大きさは、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.35, p<.05$ )。目の大きさは、「恋人として望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.27, p<.01$ )。顔の大きさ、長さ、横幅、頬の大きさ、眉のボリューム、鼻、口の大きさ、パーツの集中度は、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table 7 成男顔の形態印象と関係性希望の相関

成男	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	.04 (159)	-.12 (48)	-.15 (112)
顔の長さ	.00 (159)	.06 (48)	-.12 (112)
顔の横幅	.04 (159)	.04 (48)	.12 (112)
額の大きさ	.01 (159)	.35* (48)	-.04 (112)
頬の大きさ	.10 (159)	-.17 (48)	.05 (112)
顎の大きさ	-.10 (159)	-.35* (48)	-.11 (112)
眉ボリューム	-.10 (159)	.02 (48)	-.12 (112)
目の大きさ	-.05 (159)	-.03 (48)	-.27** (112)
鼻の大きさ	.08 (159)	.02 (48)	.00 (112)
口の大きさ	.06 (159)	-.11 (48)	-.15 (112)
パーツ集中度	.03 (159)	-.13 (48)	.05 (112)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$ 

## 4. 関係性希望と顔の印象評価の関連

## 1) 原型顔への関係性希望と印象評価の相関

原型顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table 8に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.37, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.34, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.47, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.56, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.41, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.52, p<.01$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.28, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.30, p<.01$ ) がみられた。

Table 8 原型顔への関係性希望と印象評価の相関

原型	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
若年女性性	.37** (159)	.56** (48)	.28** (111)
知性的	.34** (159)	.41** (48)	.30** (111)
人柄の良さ	.47** (159)	.52** (48)	.29 (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$ 

## 2) 幼女顔への関係性希望と印象評価の相関

幼女顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table 9に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.23, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.30, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.51, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.05$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.33, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.31, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.22, p<.05$ ) がみられた。

Table 9 幼女顔への関係性希望と印象評価の相関

幼女	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
若年女性性	.23** (159)	.51** (48)	.31** (111)
知性的	.12 (159)	.32* (48)	.07 (111)
人柄の良さ	.30** (159)	.33* (48)	.22* (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$



### 3) 成女顔への関係性希望と印象評価の相関

成女顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table10に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.52, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.51, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.49, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.55, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.61, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.36, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.50, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.31, p<.01$ ) がみられた。

Table10 成女顔への関係性希望と印象評価の相関

成女	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
若年女性性	.52** (159)	.55** (48)	.50** (111)
知性的	.51** (159)	.61** (48)	.35** (111)
人柄の良さ	.49** (159)	.36* (48)	.31** (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

### 4) 幼男顔への関係性希望と印象評価の相関

幼男顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table11に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.29, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.24, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.39, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.37, p<.05$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.38, p<.01$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.30, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.48, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.34, p<.01$ ) がみられた。

Table11 幼男顔への関係性希望と印象評価の相関

幼男	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
若年女性性	.29** (159)	.37* (48)	.30** (111)
知性的	.24** (159)	.38** (48)	.48** (111)
人柄の良さ	.39** (159)	.11 (48)	.34** (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

### 5) 成男顔への関係性希望と印象評価の相関

成男顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table12に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.21, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.34, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.62, p<.01$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「若年女性性」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.26, p<.01$ )、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.24, p<.05$ ) がみられた。

Table12 成男顔への関係性希望と印象評価の相関

成男	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
若年女性性	.35** (159)	.62** (48)	.35** (111)
知性的	.21** (159)	.15 (48)	.26** (111)
人柄の良さ	.34** (159)	.04 (48)	.24* (111)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 考 察

### 1. 5つの顔への関係性希望の違い

顔形態の差異で希望する関係性が異なるのかを検証するため、5つの顔の関係性希望について、1要因の分散分析を行った。その結果、本研究で提示された5つの顔それぞれへの関係性希望が異なることが明らかになった。友達、恋人、いずれの関係性においても、原型、幼女、成女、幼男、成男という順で希望されることが明らかになった。この結果は、女性の顔の魅力の要因（Cunningham, 1986, 大坊, 2001）が多く含まれている顔の順序であるとも言い換えることができ、魅力が高い顔の女性ほど、恋人、友達として、望まれたことを示した、小野寺（1989）の結果を支持した。また、原型が最も望まれたことに関しては、大坊（1997）の魅力の普遍性の結果を支持した。さらに、友人としては、原型、幼女、成女、幼男、が望まれたが、恋人としては、原型、幼女のみが望まれることが明らかになった。これは、女性の顔の魅力の要因（Cunningham, 1986, 大坊, 2001）が高いからであり、女性の容貌が、異性間魅力に占める重要性が大きく（蛭川, 1993）、友人選択より恋人選択の方がよりシビアになるという川名（2012）を支持するものとなった。

### 2. 5つの顔の形態印象と関係性希望の関連性

5つの顔それぞれにおいて、形態印象と関係性希望に関連があるのかを検証するため、相関係数を算出した。その結果、本研究で提示された5つの顔それぞれにおいて、顔の形態印象と関係性希望は関連性があることが示された。形態印象と最も多く関連が見られたのは、関係性希望の「恋人にしたい」であり、鼻や顎の小さい顔を恋人にしたい、ということなどが明らかになった。この、鼻や顎の小さい顔というのは、子供や女性の顔の特徴であり、女性の顔の魅力の要因の手がかりであるという Cunningham（1986）と大坊（2001）を支持する結果となった。

### 3. 5つの顔の印象評価と関係性希望の関連性

5つの顔それぞれにおいて、印象評価と関係性希望に関連があるのかを検証するため、相関係数を算出した。その結果、本研究で提示された5つの顔それぞれにおいて、印象評価と関係性希望は関連性があることが明らかになった。特に、「若年女性性」は5つの顔全ての、全関係性において関連が見られた。すなわち、若くて女性的な顔の女性は、友達として、恋人として望まれることが明らかとなった。幼さと女性性は、魅力の要因であり（Cunningham, 1986, 大坊, 2001）、顔の魅力が高いほど、恋人、友達として望まれる（小野寺, 1989）という結果を支持した。

以上から、研究1では、顔の形態により希望される関係性が異なることが明らかになり、関係性希望は、形態印象と部分的に、印象評価とは大部分で関連があることが明らかになった。研究2では、研究1で使用した原型顔に異なる数種類のメイクを施し、これら化粧の差異により希望される関係性が異なるのかを検討していく。

## 研究2

## 目 的

九島・齊藤（2015b）により作成された、女性の顔の形態を成熟－幼稚、女性－男性の2次元に分類されたメイク顔に基づき、メイクの形態の差異により希望される関係性が異なるのかを検討する。

## 方 法

### 調査参加者

都内私立大学の大学生を対象に集合形式でのアンケート実験調査を実施した。分析に使用した有効回答者数は、男性48名、女性114名の計163名であった。（ $M=19.46$ 歳・ $SD=.88$ ）

**顔刺激** 九島・齊藤（2015a）により作成された原型顔と、九島・齊藤（2015b）により作成された4つのメイク顔刺激を使用する。4つのメイク顔刺激は、研究1で使用された原型顔に幼稚的×男性的なメイク（以降、幼男メイクと表記）、幼稚的×女性的なメイク（以降、幼女メイクと表記）、大人の×女性的なメイク（以降、成女メイクと表記）、大人の×男性的なメイク（以降、成男メイクと表記）である。以上の4つのメイク顔と原型顔のノーメイク顔イラストの計

5つの顔刺激を、各縦700ミリ×横400ミリのサイズにし、A4サイズ用紙横向き中央部に5つを横並びに貼付し、クリアファイルに入れて提示した（Figure 2）。なお、刺激顔の並び順による印象変化の影響を考慮し、5通りの刺激パターンを用意した。ノーメイク顔を中央に設定し、その他4つメイク顔は、それぞれ1回は全ての位置に配置されるように組み合わせた。

**評価項目** 研究1と同様に、形態評価の11項目、印象評価の24項目、関係性希望評価の3項目で構成された。

**手続き** 上記顔刺激各々について、上記質問紙項目がどの程度あてはまるのかを、予備研究と同様の5件法で評価を求めた。

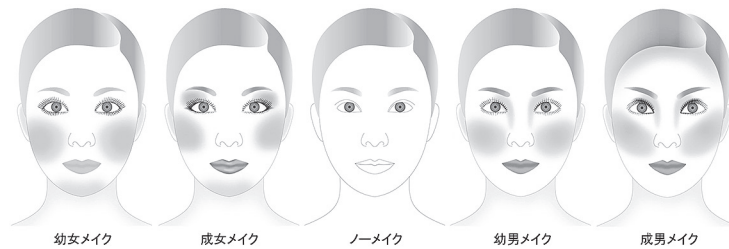


Figure 2 研究2 提示刺激

## 結 果

### 1. 5つの顔への関係性希望の違い

5つの顔への関係性希望がそれぞれ異なるのかを検証するため、関係性希望の項目ごとに分散分析を行った（Table13）。まず第一に、友達にしたい程度の分散分析の結果、5つの顔への友達にしたい程度に有意な差がみられた（ $F(4, 644)=138.971, p<.001$ ）。第二に、恋人にしたい程度の分散分析の結果、5つの顔への恋人にしたい程度に有意な差がみられた（ $F(4, 188)=28.027, p<.001$ ）。第三に、恋人として望まれる程度の分散分析の結果、5つの顔への恋人として望まれる程度に有意な差がみられた（ $F(4, 440)=74.832, p<.001$ ）。

Table13 メイクによる関係性希望の違い

		原型	幼女メイク	成女メイク	幼男メイク	成男メイク	F検定	下位検定（メイクのことをmと表記）
友だちにしたい	M	3.10	4.35	3.92	3.02	2.06	$F(4, 644)=138.971^{***}$	幼女m>成女m 原型 幼男m 成男m
	SD	1.11	.99	1.05	1.19	1.08		成女m>原型 幼男m 成男m
	n	162	162	162	162	162		原型>成男 幼男m>成男
恋人にしたい	M	2.33	3.54	3.02	2.40	1.58	$F(4, 188)=28.027^{***}$	幼女m>成女m 幼男m 原型 成男m
	SD	1.15	1.46	1.34	1.22	.85		成女m>原型 成男m
	n	48	48	48	48	48		幼男m>成男 原型>成男
恋人として望まれる	M	2.45	4.51	3.91	2.78	1.79	$F(4, 460)=156.335^{***}$	幼女m>成女m 幼男m 原型 成男m
	SD	1.02	.81	1.03	1.12	.93		成女m>原型 幼男m 成男m
	n	116	116	116	116	116		幼男m>成男 原型>成男

\*\*\*  $p<.001$

## 2. メイク顔刺激の構造

全5つの顔の印象評価に関する24項目について、5つのメイク顔刺激で構造分析をしたが、大きな違いが見られなかったため、超行列の因子分析を行った。4因子を仮定して主因子法、プロマックス回転を行った。その結果、因子負荷量0.4以上の項目のみを採用し4因子構造とすることとした。(Table14)

Table14 顔印象の因子分析結果

	人柄の良さ	若さ	知性的	女性性	$\alpha$
人がよさそう	.82	.10	.03	-.09	.88
おおらか	.78	.03	-.04	.00	
あたたかい	.71	-.04	.01	.13	
優しい	.68	.16	-.08	.10	
老けた	.03	-.69	.02	-.19	.79
若々しい	.00	.68	.03	.19	
フレッシュ	.21	.60	.26	-.08	
子供っぽい	.14	.53	-.20	-.08	
しっかりした	.06	.02	.71	-.11	.72
知的な	.13	.19	.65	-.10	
大人っぽい	-.02	-.35	.57	.16	
シャープ	-.31	.21	.55	-.03	
エレガント	.09	-.17	.49	.17	
女性的	.07	.05	.08	.74	.75
男性的	-.02	-.17	.09	-.69	
因子相関行列		.59	.25	.63	
			-.19	.25	
				.40	

## 3. 顔の形態印象と関係性希望の関連

### 1) 原型顔の形態印象と関係性希望の相関

原型顔の形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table15に示す結果が得られた。

顔の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられ ( $r = -.24, p < .01$ )、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r = .33, p < .01$ )。顎の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r = -.23, p < .01$ )。鼻の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r = -.19, p < .01$ )。口の大きさは、「恋人にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r = -.43, p < .01$ )。パーツの集中度は、「恋人にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r = .19, p < .05$ )。顔の長さ、横幅、額の広さ、頬、眉のボリューム、目の大きさは、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table15 原型顔の形態印象と関係性希望の相関

原型	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.24** (161)	-.33* (47)	-.03 (116)
顔の長さ	-.03 (161)	-.10 (47)	-.12 (116)
顔の横幅	-.12 (161)	-.18 (47)	.08 (116)
額の大きさ	-.12 (161)	-.16 (47)	-.06 (116)
頬の大きさ	-.13 (161)	-.04 (47)	.10 (116)
顎の大きさ	-.23** (161)	.00 (47)	-.06 (116)
眉ボリューム	.07 (162)	-.06 (48)	.09 (116)
目の大きさ	.01 (161)	-.20 (48)	.08 (116)
鼻の大きさ	-.19* (161)	-.13 (47)	-.12 (116)
口の大きさ	-.09 (162)	-.43** (48)	-.07 (116)
パーツ集中度	.10 (162)	.03 (48)	.19* (116)

\*\* $p < .01$  \* $p < .05$

## 2) 幼女メイクの形態印象と関係性希望の相関

幼女メイクの形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table16に示す結果が得られた。

額の大きさは、「友達にしたい」と有意な正の相関がみられ ( $r=.16, p<.05$ )、「恋人にしたい」と有意な正の相関がみられた ( $r=.32, p<.05$ )。顎の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=.19, p<.05$ )。目の大きさは、「恋人に望まれる」と有意な正の相関がみられた ( $r=.19, p<.05$ )。顔の大きさ、顔の長さ、横幅、頬の大きさ、眉のボリューム、鼻、口の大きさ、パーツの集中度は、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table16 幼女メイクの形態印象と関係性希望の相関

原型×幼女メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	.02 (161)	-.01 (47)	-.08 (116)
顔の長さ	.04 (161)	.11 (47)	-.06 (116)
顔の横幅	-.10 (161)	.17 (47)	-.11 (116)
額の大きさ	.16* (161)	.32* (47)	-.02 (116)
頬の大きさ	-.07 (161)	.00 (47)	-.02 (116)
顎の大きさ	-.19* (161)	.10 (47)	-.03 (116)
眉ボリューム	-.12 (161)	.05 (48)	-.08 (116)
目の大きさ	.05 (161)	-.15 (48)	.19* (116)
鼻の大きさ	.08 (161)	.27 (47)	-.04 (116)
口の大きさ	-.11 (161)	-.06 (48)	-.15 (116)
パーツ集中度	.12 (161)	.00 (48)	.01 (116)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 3) 成女メイクの形態印象と関係性希望の相関

成女メイクの形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table17に示す結果が得られた。

額の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.17, p<.05$ )。パーツの集中度は、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=.20, p<.05$ )、「恋人に望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.28, p<.01$ )。顔の大きさ、顔の長さ、横幅、頬、顎の大きさ、眉のボリューム、目、鼻、口の大きさは、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table17 成女メイクの形態印象と関係性希望の相関

原型×成女メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.06 (160)	-.08 (47)	.03 (115)
顔の長さ	-.06 (161)	-.26 (47)	-.03 (116)
顔の横幅	-.08 (161)	.02 (47)	.00 (116)
額の大きさ	-.17* (161)	.06 (47)	-.11 (116)
頬の大きさ	.00 (161)	.16 (47)	-.12 (116)
顎の大きさ	-.15 (161)	.20 (47)	-.05 (116)
眉ボリューム	-.06 (162)	.06 (48)	-.01 (116)
目の大きさ	.06 (160)	-.01 (48)	.09 (114)
鼻の大きさ	-.08 (161)	.05 (47)	-.08 (116)
口の大きさ	-.07 (162)	.01 (48)	-.08 (116)
パーツ集中度	-.20* (162)	-.23 (48)	-.28** (116)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 4) 幼男メイクの形態印象と関係性希望の相関

幼男メイクの形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table18に示す結果が得られた。

顔の長さは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.18, p<.05$ )。額の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.20, p<.01$ )。顔の大きさ、横幅、頬、顎の大きさ、眉のボリューム、目、鼻、口の大きさ、パーツの集中度は、関係性希望と有意な相関を示さなかった。



Table18 幼男メイクの形態印象と関係性希望の相関

原型×幼男メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.14 (161)	.08 (47)	-.15 (116)
顔の長さ	-.18* (161)	-.10 (47)	-.18 (116)
顔の横幅	.03 (161)	-.12 (47)	.09 (116)
額の大きさ	-.20** (161)	-.25 (47)	.01 (116)
頬の大きさ	-.09 (161)	-.23 (47)	-.08 (116)
顎の大きさ	-.07 (161)	.02 (47)	.15 (116)
眉ボリューム	.04 (162)	.15 (48)	.15 (116)
目の大きさ	.02 (161)	.06 (48)	-.10 (115)
鼻の大きさ	.00 (161)	.10 (47)	-.05 (116)
口の大きさ	-.15 (162)	.03 (48)	-.14 (116)
パーツ集中度	-.11 (162)	-.01 (48)	-.07 (116)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$ 

## 5) 成男メイクの形態印象と関係性希望の相関

成男メイクの形態印象の各項目と関係性希望3項目の相関係数を算出したところ、Table19に示す結果が得られた。

顔の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.19, p<.05$ )。顔の長さは、「恋人に望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.25, p<.01$ )。顎の大きさは、「恋人に望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.19, p<.05$ )。眉のボリュームは、「恋人に望まれる」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.23, p<.05$ )。口の大きさは、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.18, p<.05$ )。パーツの集中度は、「友達にしたい」と有意な負の相関がみられた ( $r=-.25, p<.01$ )。顔の横幅、額、頬の大きさ、目、鼻の大きさは、関係性希望と有意な相関を示さなかった。

Table19 成男メイクの形態印象と関係性希望の相関

原型×成男メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
顔の大きさ	-.19* (162)	-.06 (48)	-.15 (116)
顔の長さ	-.14 (160)	-.25 (47)	-.25** (115)
顔の横幅	.03 (161)	.05 (47)	-.02 (116)
額の大きさ	.03 (161)	.21 (47)	.06 (116)
頬の大きさ	.04 (161)	.03 (47)	-.05 (116)
顎の大きさ	-.04 (161)	.07 (47)	-.19* (116)
眉ボリューム	-.13 (162)	-.01 (48)	-.23* (116)
目の大きさ	-.13 (161)	.06 (48)	-.08 (115)
鼻の大きさ	-.05 (160)	-.10 (46)	-.05 (116)
口の大きさ	-.18* (162)	.11 (48)	-.15 (116)
パーツ集中度	-.25** (162)	-.08 (48)	-.05 (116)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$ 

## 4. 関係性希望と顔の印象評価の関連

## 1) 原型顔への関係性希望と印象評価の相関

原型顔への関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table20に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.50, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.45, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=-.20, p<.05$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.20, p<.05$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.43, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.31, p<.05$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ ) がみられた。

Table20 原型顔への関係性希望と印象評価の相関

原型ノーメイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
人柄の良さ	.50** (162)	.43** (48)	.35** (115)
若さ	.45** (159)	.31* (47)	.35** (113)
知性的	.20* (161)	.32* (48)	.18 (114)
女性性	.20* (162)	.17 (48)	.35** (115)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 2) 幼女メイクへの関係性希望と印象評価の相関

幼女メイクへの関係性希望 3 項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table21に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.41, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.40, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.48, p<.01$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.50, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.26, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.26, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.33, p<.01$ ) がみられた。

Table21 幼女メイクへの関係性希望と印象評価の相関

原型×幼女メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
人柄の良さ	.41** (161)	.13 (48)	.50** (115)
若さ	.40** (161)	.48** (47)	.26** (114)
知性的	.12 (161)	.09 (48)	.26** (114)
女性性	.35** (161)	.16 (48)	.33** (115)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 3) 成女メイクへの関係性希望と印象評価の相関

成女メイクへの関係性希望 3 項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table22に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.38, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.36, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.17, p<.05$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.16, p<.05$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.30, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.39, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.34, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.21, p<.05$ ) がみられた。

Table22 成女メイクへの関係性希望と印象評価の相関

原型×成女メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
人柄の良さ	.38** (162)	.30* (48)	.39** (115)
若さ	.36** (160)	.54 (47)	.34** (114)
知性的	.17* (161)	.18 (48)	.21* (114)
女性性	.16* (162)	.17 (48)	.10 (115)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 4) 幼男メイクへの関係性希望と印象評価の相関

幼男メイクへの関係性希望 3 項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table23に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.59, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.52, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.35, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.26, p<.01$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.54, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.05$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.51, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.43, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.33, p<.01$ ) がみられた。

Table23 幼男メイクへの関係性希望と印象評価の相関

原型×幼男メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
人柄の良さ	.59** (162)	.54** (48)	.51** (115)
若さ	.52** (159)	.32* (46)	.43** (114)
知性的	.35** (161)	.32* (48)	.32** (114)
女性性	.26** (162)	.01 (48)	.33** (115)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 5) 成男メイクへの関係性希望と印象評価の相関

成男メイクへの関係性希望3項目と印象評価の相関係数を算出したところ、Table24に示す結果が得られた。「友達にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.44, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.43, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.19, p<.05$ ) がみられた。「恋人にしたい」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.33, p<.05$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.31, p<.05$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.32, p<.05$ ) がみられた。「恋人として望まれる」は、「人柄の良さ」と有意な正の相関 ( $r=.42, p<.01$ )、「若さ」と有意な正の相関 ( $r=.33, p<.01$ )、「知性的」と有意な正の相関 ( $r=.28, p<.01$ )、「女性性」と有意な正の相関 ( $r=.19, p<.01$ ) がみられた。

Table24 成男メイクへの関係性希望と印象評価の相関

原型×成男メイク	友達にしたい	恋人にしたい	恋人に望まれる
人柄の良さ	.44** (162)	.33* (48)	.42** (115)
若さ	.43** (160)	.31* (47)	.33** (114)
知性的	.19* (161)	.32* (48)	.28** (114)
女性性	.11 (162)	.03 (48)	.19* (115)

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$

## 考 察

第2研究では、メイクの差異で希望する関係性が異なるのかを検討することを目的とした。

### 1. 4種類のメイクへの関係性希望の違い

4種類のメイクが、それぞれ関係性希望が異なるかを検証するため、4つのメイクと原型ノーメイク顔の関係性希望について、1要因の分散分析を行った。その結果、本研究で作成された4種類のメイクそれぞれへの関係性希望が異なることが明らかになった。

まず友人希望には、幼女メイクが友達として最も望まれ、次いで成女メイク、ノーメイク、幼男メイクであった。成男メイクは友達としての関係を望まれなかった。次に男性のみが回答した恋人希望と、同性である女性のみが回答した恋人としてどの程度望まれるかでは、幼女メイクが恋人として最も望まれ、次いで成女メイクであった。幼男メイク、ノーメイク、成男メイクは恋人としての関係を望まれなかった。男性的評価をされる傾向のあるノーメイク顔、および男性特徴を用いたメイクは、恋人として望まれず、男性特徴の最も強い成男メイクは、異性選択だけでなく友達としても望まれなかった。

これまでのメイクに関する魅力研究では、メイクをすることで魅力が上昇する、ということが明らかにされてきた (Cox & Glick, 1986, Graham & Furnham, 1981, Workman & Johnson, 1991, 津田他, 1989) が、大人の男性的な特徴の成男メイクは、ノーメイクよりも評価が低かった。これは、メイク次第では外見的魅力や客観的評価を下げてしまう可能性があるという大坊 (1998) の「化粧の両面効果」を支持するものである。すなわち、この大人の男性的な顔特徴というのは、幼児性や女性性といった女性の顔の魅力の要因 (Cunningham, 1986, 大坊, 2001) とは反対方向にある、魅力的でない要因であることが推察される。

### 2. 4種類のメイクの形態印象と関係性希望の関連性

4種類のメイクそれぞれにおいて、形態印象と関係性希望が相互に関連があるのかを検証するため、形態印象11項目と関係性希望の3項目の相関係数を算出した。その結果、メイク顔形態印象と関係性希望の間に関連性があることが明らかになった。例えば、幼女メイク顔では、額が大きいほど恋人にしたいと思われ、成女メイクでは、パーツが集中していないほど恋人に望まれると想定され、幼男メイクでは、額が大きいほど友達にしたいと思われ、成男メイクでは、顔が短いほど恋人に望まれると想定されることなどが明らかになった。これらは、子供や女性の顔の特徴であり、女性の顔の魅力の要因の手がかりであるという Cunningham (1986) と大坊 (2001) を支持する結果となった。

### 3. 4種類のメイクの印象評価と関係性希望の関連性

4種類のメイクそれぞれにおいて、印象評価と関係性希望が相互に関連があるのかを検証するため、印象評価4因子と関係性希望の3項目の相関係数を算出した。その結果、4種類のメイクとノーメイクそれぞれにおいて、印象評価と関係性希望との間に関連性がみられた。特に、印象評価の第一因子である「人柄の良さ」と、第二因子の「若さ」において、関係性希望と多くの相関がみられた。例えば、幼女メイク顔では、若い印象があるほど恋人にしたいと思われ、成女メイクでは、人柄が良い印象ほど友達にしたいと思われ、幼男メイクでは、女性性が高いほど、恋人に望まれると想定され、成男メイクでは、知性的であるほど恋人にしたいと思われることなどが明らかになった。

以上の結果により、形態印象と関係性希望の関連性には、部分的に相関が見られ、印象評価と関係性希望の間には、大部分で相関関係がみられたことから、4種類のメイクはそれぞれ、形態印象、印象評価と関係性希望は、相互に関連があることが明らかになった。

### 4. 今後の課題

以上から、顔形態の差異、化粧の差異により、希望される関係性が異なることが明らかとなった。どのようなメイクをすることで、友達や恋人として希望をされるのか、もしくは希望されないのかこれらを把握した上でメイクをすることは、メイクをする多くの人の対人関係に、好影響を及ぼすものであることと期待される。

本研究では大学生を対象に調査を行ったため、希望する関係性を友だちと恋人のみに限定して検討したが、実社会ではそれら以外の多くの関係性が存在する。今後の研究では、多くの社会的対人場面を設定していくことが求められる。それにより、メイクを対人関係形成の一つのツールとして強固なものとしていけるものとする。

### 註

- 1) 化粧とは、広義には、身体加工（髪を切るなど）、色調生成（刺青など）、塗彩（メイクアップなど）に分類される（村澤, 2001）。本研究では、上記の塗彩（メイクアップ）を取り上げる。メイクアップとは、ファンデーション、アイブロー、アイカラー、アイライン、マスカラ、チークカラー、リップカラーなどを用いて、顔の形や色を変化させることとである（村澤, 2001）。また、メイクによるイメージ表現は、色・形・質感の3つの要素を組み合わせることにより行われる（高野, 2001）。本研究では、化粧を狭義のメイクアップ（以下、化粧もしくはメイクと記載）と定義する。

### 引用文献

- Bar-Tal, D., & Saxe, L. (1976). Physical attractiveness and its relationship to sex-role. *Sex Roles*, 2, 2, 123-133.
- Berschied, E. (1981). An overview of the psychological effects of physical attractiveness. University of Michigan press.
- Bull, R., & Rumsey, N. (1988). The social Psychology of facial appearance. *Springer Series in Social Psychology*, 121-150.
- Buss, D.M. (1989). Sex differences in human mate preferences: Evolutionary hypotheses tested in 37 cultures. *Behavioral and Brain Sciences*, 12, 1, 1-14.
- Cash, T.F., & Kilcullen, R.N. (1985). The Aye of the Beholder: Susceptibility to Sexism and Beautyism in the Evaluation of Managerial Applicants. *Journal of Applied Social Psychology*, 15, 4, 591-605.
- Cash, T.F., Dawson, K., Davis, P., Bowen, M., & Galumbeck, C. (1989). Effects of Cosmetics Use on the Physical Attractiveness and Body Image of American College Women. *The Journal of Social Psychology*, 129, 3.
- Cox, C.L., & Glick, W.H. (1986). Resume evaluations and cosmetics use : when more is not better. *Sex roles*, 14, 51-58.
- Cunningham, M.R. (1986). Measuring the Physical in Physical Attractiveness: Quasi-Experiments on the Sociobiology of Female Facial Beauty. *Journal of Personality and Social Psychology*, 50, 5, 925-935.
- Cunningham, M.R., Roberts, A.R., Barbee, A.P., Perri, B., & Wu, Cheng-Huan (1995). "Their Ideas of Beauty Are, on the Whole, the Same as Ours": Consistency and Variability in the Cross-Cultural Perception of Female Physical Attractiveness. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, 2, 261-279.

- 大坊郁夫 (2001). 化粧行動の社会心理学 大坊郁夫 (著) 高木修 (監) 北大路書房
- 大坊郁夫 (1997). 美のこれから 魅力の心理学 ポーラ文化研究所
- Dion, K., Berscheid, E., & Walster, E. (1972). What is beautiful is good. *Journal of Personality and Social Psychology*, 24, 3, 285-290.
- Graham, J.A., & Furnham, A.F. (1981). Sexual differences in attractiveness ratings of day/night cosmetic use - *Cosmetic Technology*, 3, 36-42.
- Greenlees, I.A., & McGrew, W.C. (1994). Sex and age differences in preferences and tactics of mate attraction: Analysis of published advertisements *Ethology and Sociobiology*, 15, 2, 59-72.
- Hamermesh, D.S., & Biddle, J.E. (1994). Beauty and the labor market. *The American Economic Review*, 84, 1174-94.
- Hamid, P.N. (1972). Some Effects of Dress Cues on Observational Accuracy, a Perceptual Estimate, and Impression Formation *The Journal of Social Psychology*, 86, 2.
- Harrell, W.A. (1978). Physical Attractiveness, Self-Disclosure, and Helping Behavior *The Journal of Social Psychology*, 104, 1.
- Hatfield, E., & Sprecher, S. (1986). *Mirror mirror the importance of looks in everyday life*. State university of New York.
- 蛭川立 (1993). 顔と心—顔の心理学入門— 蛭川立 (著) 吉川左紀子・益谷真・中村真 (編) サイエンス社
- 金田すみれ・山本百合子 (2004). 体の美しさに関する研究 (その11) 顔に関する意識調査について 福山市立女子短期大学紀要, 30, 11-20.
- 川名好裕 (2012). 化粧と笑顔による魅力変化 立正大学心理学研究年報, 19-32.
- 九島紀子・齊藤勇 (2015a). 顔パーツ配置の差異による顔印象の検討 立正大学心理学研究年報 6, 35-52.
- 九島紀子・齊藤勇 (2015b). 化粧が対人印象に及ぼす影響—顔形態とメイクの差異による印象操作の実証的研究— 応用心理学研究, 41, 1, 39-55.
- Landy, D., & Sigall, H. (1974). Beauty is talent: Task evaluation as a function of the performer's physical attractiveness. *Journal of Personality and Social Psychology*, 29, 3.
- Rudd, N.A., & Lennon, S.J. (2004). Appearance and power: Kim K.P. Johnson, Sharron J. Lennon (Eds.) (Kim K.P. Johnson (編), Sharron J. Lennon (編) 高木修 (監訳), 神山進 (監訳), 井上和子 (監訳) (2004) 外見とパワー 北大路書房
- Mckelvie, S., & Matthews, S. (1976). Effects of physical attractiveness and favorableness of character on liking. *Psychological Reports*, 38, 1223-1230.
- Mins, P.R., Hartnett, J.J., & Nay, W.R. (1975). Interpersonal Attraction and Help Volunteering as a Function of Physical Attractiveness. *The Journal of Psychology: Interdisciplinary and Applied*, 89, 1.
- 村澤博人 (2001). 化粧行動の社会心理学—化粧の文化誌・装いと変身の化粧 村澤博人 (著) 大坊郁夫 (編), 高木修 (監) 北大路書房
- 小野寺孝義 (1989). 美人タイプと美人ステレオタイプに関する研究 東海女子短期大学紀要15, 113-122.
- Patzer, G.L. (1983). Source credibility as a function of communicator physical attractiveness. *Journal of Business Research* 11, 2, 229-241.
- 高野ルリ子 (2010). 顔の印象評価におけるメーキャップと笑顔度の影響 日本顔学会誌, 10, 37-48.
- 高野ルリ子 (2001). メーキャップのサイエンス 大坊郁夫 (編) 高木修 (監) 化粧行動の社会心理学 北大路書房 90-101.
- 津田兼六・余語真夫・浜治世 (1989). 化粧と表情による容貌印象の変化 関西心理学会101回大会発表論文集, 80.
- Udry, R., & Eckland, B.K. (1984). Benefits of being attractive: differential payoffs for men and women. *Psychological Reports*, 54, 47-56.
- Walster, Elaine., Aronson, V., Abrahams, D., & Rottman, L. (1966) Importance of physical attractiveness in dating behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 4, 5.



Workman, J. E., & Johnson, K. K. P. (1991). The Role of Cosmetics in Impression Formation Clothing and Textiles Research Journal, 10, 1, 63-67.

山口 真美 (2010). 美人は得をするか「顔」学入門 集英社